



学校法人高知学園
高知リハビリテーション学院

学 院 報

学院報第14号

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション学院

平成23年5月10日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙1139-3
Tel 088-850-2311
Fax 088-850-2323
http://www.kochi-reha.ac.jp/
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション 学院への抱負③

学院長 大倉 三洋

三月十一日に東北地方で発生いたしました東日本大震災、未曾有の大災害をもたらした方々が被害にあわれました。お亡くなりになられた方々に心より哀悼の意を表すとともに被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。本院の卒業生の中にも人的被害は無かったものの家や職場が被害にあわれた方もおられ、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

学院長に就任し、はや一年、三月十三日には学院長として初めて、理学療法学科四十期生七一名、作業療法学科十五期生二五名、言語療法学科十一期生一九名、合計一二五名の卒業生を送り出すことができました。本院の卒業生は平成二十二年までの卒業生を合わせますと二〇三〇名と二〇〇〇名を超え、卒業式でも述べたように心強い先輩方が北は北海道から南は九州・沖縄まで全国で活躍しております。高知リハビリテーション学院は皆様の古里であり、卒業生は本院の宝です。今年卒業されました一二五名の皆さんも卒業生の一員として自覚と誇りを持って頑張っていただきたいと思っております。

また、四月二日には理学療法学科第四十四期生六九名、作業療法学科十九期生三九名、言語療法学科第十五期生三九名、

合計一四七名の若いエネルギーに溢れる新入生を迎え、高知リハビリテーション学院の平成二十三年度がスタートいたしました。前回の学院報(第十三号)で定員増にもない図書室が手狭になり、新しい図書館(情報ライブラリー・センター)の建設、合同教室の不足、運動場の確保など教育環境の拡充・整備の必要性について書かせていただきました。平成二十三年度より図書室は図書館と名称も改め、司書の方も非常勤から常勤の職員となり、合同教室も含めた新しい図書館の基本設計を現在行っております。平成二十三年度は高知リハビリテーション学院の教育環境の拡充・整備へのスタートの年として、また大学移行も含めた学院のあり方について土佐市の協力を仰ぎながら積極的に取り組んで参りたいと考えております。

また平成二十二年十月より土佐市のご厚情により、土佐市に在住する学生に対し就学奨励費として年間六万円(四年間で二十四万円)の補助金が交付されるようになりました。平成二十二年度は一四一名の学生がこの制度を利用しており、このような制度があることももつと知っていただき大いに利用していただきたいと思います。

学生生活を振り返って



理学療法学科
小島 保直

僕が学院生活を振り返って一番に思い出すことは、友達との存在です。みんな簡単に話れないような、エキサイティングな友達ばかりでした。そんな友達に、勉強の分からないところは教えてもらったり、時にはこちらが教える立場になったりしました。勉強以外にもレクリエーション大会や学院祭、飲み会など、四年間で様々な機会が友達と接し、みんなの



作業療法学科
細川 真生子

この学院での生活は、あつという間に過ぎてしまいました。私にとって有意義なものとなりました。四年間では様々な行事があり、沢山の経験ができました。私の中で特に印象的なものは、臨床実習でした。臨床実習で行かせていただいた病院は、地域との連携が強く、地域に患者さんが帰れるように取り組んでいる病



言語療法学科
高畑 友里

はじめに、言語療法学科の先生方、私達十一期生を最後まで指導して下さい。本当にありがとうございました。

十一期生は、入学当初ほとまりの無いクラスでした。授業以外では教室に誰もおらず、試験期間も学校に残り一緒に勉強しているのは数人のみで、仲良くなれるのかと不安に思っていました。しかし、何か目標を持った時、とっても強い私たちがいることに気がきました。三年次の学院祭のクラス自慢では何と優勝！少

いいところを見せてもらい、自分の足りないところを気付かせてもらいました。そんな経験を通じて、僕は四年間で精神的に成長できたように感じています。これはまわりの友達のおかげだと思います。そして、みんなに感謝しています。そして何より、四年間とても楽しかったです。だから今、高知リハに入学して本当に良かったと感じていますし、みんなと出会えてよかったと思っています。なので、いつかエキサイティングな友達とエキサイティングな同窓会ができることを、僕は今から楽しみにしています。

院が多かったです。また、卒業論文で元の高齢者に協力をしていただいた、転倒の危険性について調査しました。現場に直面した事で、より一層私は地域リハビリテーションをしたいと思うようになりました。今後、得た知識を活用して地域で活躍していきたいと思っています。

学院生活では、沢山の困難がありましたが、同じ夢を持った仲間と互いに支え合い、先生方のご指導のもと無事に乗り越える事ができました。先生方、最後まで指導して下さい。本当にありがとうございました。

ない時間の中みんなで必死に練習した事は忘れられません。上級生になるほど学校で過ごす時間が増え、卒業間際に教室に集まった日、特に用も無いけど残って話をしていた人達を見て私は少し嬉しく感じたことを覚えています。

いつも同じ空間でいたため、また登校したら皆に会えるような気がしました。また、四年前は不安な気持ちでいたこの場所が今ではとても大切な場所となりました。学生として教室に集まることはもうありません。今度は、言語聴覚士の仲間として会えることを楽しみに、日々の臨床活動を頑張っていきたいと考えています。

● 国家試験結果について ●

国家試験対策実務委員長 大塚 貴英

2月23日に言語聴覚士国家試験、2月27日に理学療法士・作業療法士国家試験が行われ、本学院からは、言語療法学科28名・理学療法学科71名・作業療法学科25名が受験しました。どの学科も合格率で全国平均を上回ることはできましたが、目標である「100%合格」は、残念ながら達成することができませんでした。

今年の国家試験はどの分野も難易度が高く、全国の合格率が言語聴覚士69.3% (昨年度64.8%)、理学療法士74.3% (昨年度92.6%)、作業療法士71.1% (昨年度82.2%)と7割前後の合格率となっています。このことは、これまで「療法士の増加」に力を入れていた厚生労働省が、「療法士の質の確保」という方針転換に本腰を入れてきたという現れであると感じています。

これまで本学院は、質の高い療法士の輩出を目指して学生と関わってきましたが、今後はより一層、教職員が協力し、質の高い教育を行っていきたくと考えています。



◆ 専修学校教育振興会 会長表彰者	理学療法学科 岡崎 佐織	作業療法学科 眞辺 拓人	言語療法学科 谷脇 結衣
◆ 日本リハビリテーション 学校協会優秀賞	理学療法学科 戸梶 慎也	作業療法学科 宇佐美 祐衣	言語療法学科 太田 奈美
◆ 日本理学療法士協会優秀賞	道上 真衣		
◆ 日本語聴覚士養成校 教員連絡協議会優秀賞	牛窓 紫央里		
◆ 学院長表彰	理学療法学科 竹村 美紀	作業療法学科 坂本 和弥	言語療法学科 野村 直美

卒業研究発表会

理学療法学科 補導主任 山崎 裕司

七一年の四年生が研究を行い、多くの知見が得られました。「しゃがみこみ動作に必要な足関節の背屈可動域」、「反対側股関節の伸展可動域の増大が股関節屈曲可動域を増大させる」、「午前中と午後では関節可動域が一〇度違う」、「健常者でも股関節可動域が小さいために股関節屈筋

作業療法学科 補導主任 平松 真奈美

平成二十二年十二月一日から三日までの卒業研究発表会では、作業療法学科二六名が発表し、活発な質疑応答が行われました。三年次生から卒業研究に向けての準備を進めていきましたが、初めての研究でもあり、計画に難渋してなかなか捗りませんでした。投げ出したいこともあった

力が低下する」。こんなこと教科書には載っていません。難解な統計手法を用いた論文を読むと、どこが役に立つのだろうと思ったりします。でも今回の卒業研究で得られた成果は有益です。理学療法は完成したものではありません。数多くの研究成果の蓄積によって良くなっています。理学療法学の発展のために、これからも一緒に研究を行っていきましょう。

と思います。幾度となく教員に助言をもらいながら、無事に終わることができました。疑問を持って物事に取り組み、自ら考え行動して解決へと結びつけることは、これから作業療法士として従事するためにも重要です。この卒業研究を通して学んだことを活かして、今後も対象者の方への援助や学術研究に研鑽して欲しいと願っています。

言語療法学科 補導主任 石川 裕治

昨年十二月一日〜三日に、三学科合同の卒業研究発表会が行われました。言語療法学科では、四年次生二九名が学校生活集大成ともいえる発表を無事終えることができました。

今回は、この発表会を終えるまでに学生がどのような過程を経てきたかを少し書いてみたいと思います。

まず、各学生が担当教員に分かれ(ゼミ活動)、テーマを検討します。教員やゼミ内の学生からアドバイスをを受け、教員と学年全員でのテーマ発表会を行います。テーマ発表会が終了すると、今度は中間発表会

に向けて、方法論を検討し、結果、考察と作業を進めていきます。中間発表会では、新たに担当教員(主査)以外に副査が付き、ポスター形式の発表会を行います。そして最後に、学科内での最終発表会を行います。この時には、①抄録(A4用紙一枚)、②論文(A4用紙四枚〜五枚)、③発表用ポスターを完成させます。

このように、学生は多くの過程を経て研究活動を行っています。この活動を通して、「聴く」「話す」「読む」「書く」の基本的な能力、また集団活動に必要な作法等を学んでいきます。また、各発表会には三年次生等も参加することにより、経験の伝達にもなり、学科の特色の一つともなっています。



人間総合科学大学 併修についての報告

高知リハビリテーション学院では、平成十二年から人間総合科学大学と併修提携を結び、併修制度を取り入れていきます。この併修制度とは、同時に専門学校と大学で学ぶシステムです。本学院は、豊かな人間性と高い知性をもつことで品位を高めるといふ人間総合科学大学の理念に共感し、幅広い教養を身につけることが医療人の道を歩み始めたときに必ずや役に立つとの思いから、併修提携を結びました。

現在、約四割の学生がこの併修制度を利用していますが、平成二十二年高知リハビリテーション学院卒業生のうち、五四名が、人間総合科学大学人間学部人間科学科を平成二十二年三月二十七日に卒業しました。なお、平成二十三年度入学者数は二九名になる予定です。

卒業生には、医療や介護・福祉の場面において大学で得た学識をもって対象者から信頼と敬愛の念を得て、活躍されるよう期待しています。

(教務部長 山本)



就職状況について

就職指導委員会 委員長
平賀 康嗣

就職状況について国家試験前に就職内定した学生は、理学療法学科では七一名中七一名、作業療法学科では二六名中二四名、言語療法学科では二八名中二三名であり、未決定者のほとんどが国家試験合格後に決定すると学生個人レベルで判断していた。つまり平成二十二年度の就職は一〇〇%可能であり、ある程度自分の希望が叶う状況であるといえる。

これに対して日本社会全体はどうであったかという点、厚生労働省が就職内定状況を調査した結果(平成二十二年十月一日現在)、大学卒業予定者の内定率は過去最低の五七・六%で前年同期を四・九ポイント下回っており、男子は五九・五%(前年同期を三・八ポイント下回る)、女子は五五・三%(前年同期を六・三ポイント下回る)であり、短期大学卒業予定者に至っては内定率二二・五%(前年同期を六・五ポイント下回る)と散々な結果となっている。就職内定率の花形である理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の養成校を含む専修学校就職内定率でさえ三七・九%(前年同期を五・五ポイント下回る)である現在の就職状況を考えると、高知リハビリテーション学院の就職内定状況は良好であると言える。

知つとうせ

《それから第13回の巻》

学び方

いまの学生は、総じて自宅での学習習慣がないことがマスコミでよく取り上げられます。確かに、毎日、小学生のように予習や復習をする学生は、あまりいないように思えます。しかし医療系の専門学校学生となると、そうはいかなくなります。卒業と同時に国家試験がありますし、卒業すればすぐに、患者さんや障害をもつ人の治療や指導にあたることとなります。四年間という限られた時間で、それぞれのセラピスト(療法士)として業務できるだけの学識と技量を育てておかねばならないのです。

学習すべき内容は医学の発展とともに習得すべき知識量は昔に比べ何倍にもなっていますし、臨床(現場)では患者や対象者に適した方法の選択が求められます。誰に対しても昔ながらの同じ方法という訳にはいかないのです。これを思うと日々の積み重ねが大事です。さらに、常に時代遅れにならないために卒業後も学習が必要で、先ずは学習習慣を身につけておかねばなりません。そして、学習方法には「暗記」でなく「理解」と「応用」が求められます。高等学校までのように、テスト直前の「一夜漬けの暗記」では知識が身につくことはありません。効率よく学んで、理解し、知識を自己のものとして生涯にわたって積み重ね、臨床では適宜すばやく応用できるようにしておくこと、これが学びの基本です。

(教務部 山本)

))) 教 員 紹 介 (((



理学療法学科
柏 智之

私は、高知リハビリテーション学院の理学療法学科三十期生です。高知市内にある病院で理学療法士として六年間勤務した後、本学院に講師として入職してから今年で五年目を迎えます。

この三月には、入職当初から四年間付き合ってきた理学療法学科四十期生を初めての卒業生として送り出しました。四十期生と過ごしたこの四年間で非常に印象的だったのは、

日々手に取るように変化・成長していく学生たちの様子です。入学時には色々な意味で驚かされる学生ばかりでしたが、卒業時にはそれぞれが見違えるように成長しており、その姿を目にするのは今までに経験したことのない感動と喜びでした。本年四月からは、理学療法学科四十四期生の補導主任を任されることとなりました。また若干の不安はありますが、四年後には別人のように成長した四十四期生の姿が見られるように、新たな気持ちで日々学生に関わっていきたいと思っています。



作業療法学科
石元 美知子

私は三年生と四年生の副補導主任をしています。四年生は五月から、三年生は一月から臨床実習があり、それに向けて、勉強した知識を実践へと繋げることや、社会性をつけていくことも課題です。担当科目は、

一・二年生では「身体の構造と機能」と、その機能演習、動作解析」という運動学系の科目です。これらの科目は神経・筋肉の解剖が基礎となる科目です。三年生では「中枢神経障

害、脊髄障害、高次脳機能障害、職業リハビリテーション」です。これらの科目は、一・二年生で学習した疾患や障害の理解や、神経・筋・運動の知識の上に成り立っています。知識を順に積み上げていってほしいと思います。

もう一つ、OTは、患者さんと一緒にこれからの生活を作っていくことです。人の気持ちを察することができるとも重要です。友達といっぱいコミュニケーションを取ってください。そして、教員とも、教員観察も役に立つと思いますよ。教員室に良く質問に来てください。



言語療法学科
福留 梨佐

私は八年前に本学院を卒業し、今年、教員として六年目を迎えることになりました。

これまで十期生の一・二年次の副担任、三・四年次の担任を務め、今年、入学しました十五期生の担任を受け持つことになりました。一年次からの担任は初めてですので、担任となるのが決まった時点で色々な事を考えるようになりました。恐

らく、新入生も私と同じように胸いっぱいの不安と希望で日々を過ごしているのではないのでしょうか。本学院の学生は国家試験に合格すると皆、同じ職種として働くことがほぼ決まっています。その道に不安を抱く学生、夢をどんどん大きく描き希望に満ち溢れていく学生など、色々な学生がこの六年間で目にしました。自分が志した道が輝く道となるように学生と一緒に精一杯、頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

クラブ活動について

本学院では、勉強の他にクラブ活動も学生が積極的に行っており、現在は、フットサル部・卓球部・バレー部・バスケット部・ソフトボール部・バドミントン部・剣道部・野球部・テニス部・ダンス部・吹奏楽部・軽音部の計十二の多種多様なクラブがあり、放課後や休日に活動を行っている。学生によっては複数のクラブに所属している程、学年や学科の垣根を越えて楽しくかつ、真剣に活動している。



各スポーツクラブは、土佐市内や高知県内の大会などにも参加しており、試合で勝ったり負けたりする中で、みんなで話し合い・励まし合いながら絆を深めている。その中でも、吹奏楽部などは学院祭やイベント・ボランティア活動など幅広く活動している。ボランティア活動では老人ホームなど施設に向いて演奏をしたり、お年寄りとの交流を深め、毎年好評を頂いている。このようにクラブ活動では、勉強だけでは学ぶことのできない連帯感や達成感などを体験し、学院生活の大きな思い出のページとなっている。

図書館だより

依光 朋子

四月より、高知リハビリテーション学院図書室から高知リハビリテーション学院図書館へと名称変更いたしました。気持ちも新たに、発進できるサービスを増やし、学生の皆さんの利用の声にこたえていきたいと思っています。今回は図書館が発進している情報について、一部紹介します。図書館では、毎月「図書だより」を発行しています。新刊案内、利用案内や教職員のコラムなど役立つ情報を載せています。そこで、毎月発表されているのが貸出冊数ランキングです。

前月分の多読者を発表しています。また、年間を通しての貸出が多い多読者ランキングは、図書館カウンター前に掲示しています。「ランキングにどうしても入りたくない！」と、張り切って借りに来たり、「いつの間にかこんなに借りたのか」と自身に驚いたり、友達の名前を見つけて喜んだり、それぞれがランキングに興味を示してくれているようです。本を借りる励みになったり、図書館に来るきっかけに少しでもなってもらえれば嬉しいかぎりです。図書館では、学生の皆さんが気持ちよく利用できるよう、今年度も取り組んで生きたいと思っています。是非、図書館で研究・勉強・一息してください。

保健室だより

上村 孝子

平成二十三年度が始まりました。新しい生活が始まって環境が大きく変化すると緊張や不安がかかる人もいると思います。そんな時は気分をリフレッシュして、心と体をゆつくり休めましょう。また、自分にあつたストレスの解消法を見つけてみましょう。

健康診断当日に受けることが出来なかつた人は、最寄りの保健所が医療機関を受診し、直ちにその診断結果を保健室に提出してください。結果が戻ってきたら、結果を読み、自分の体の状態を知っておきましょう。何らかの所見がみられた人は、まずは保健室に相談に来てください。

◇健康診断について◇

本学では、今年も三月と四月に定期健康診断を実施しました。

みなさんが、健康で安全に学校生活を送るために学校保健安全法という法律の基に疾病の早期発見・早期治療、および健康管理を目的として行うものですから、学生のみならずは必ず受診しなければなりません。「就職で使うから」、「実習で必要だから」という理由だけではありま

◇気軽に利用してください◇

保健室は、月曜から金曜の八時三十分～十七時三十分まで開いています。皆さんが心身ともに健康な生活を送れるようお手伝いをしたいと思っています。怪我をしたとき、体調が悪いとき、心や体について知りたいとき、悩みや相談があるとき、話をしたい時など気軽に足を運んでみてください。

また保健室では、体重や血圧測定が出来ます。定期的に行つて、健康管理に役立てましょう。

全国で活躍する卒業生シリーズ⑭

あれから早二十八年

巨摩公立病院
理学療法学科十二期生

小林 伸一



山梨には「くじら会」(会長…二十七期卒業生井村順治)という卒業生+気の合う仲間が集まって、医療・介護から政治・経済、想い出話まで幅広い話題を飲みながら語り合う会があります。どういつか彼此二十年以上毎月欠かさず続いています。このくじら会の仲間を支えられて早二十八年が過ぎました。情けないことに、理学療法士として胸を張れるような知識・技術も無いまま…もつと若いうちに苦勞しておけば…、研鑽を積んでいれば…、後悔先に立たず。この年ではもう遅い…。それでも、卒業以来『苦勞されている患者さんやご家族が日々元気に生活を送れるために、私でお役に立てる事は何か』、『患者さんやご家族に学ばせて頂いたことは決して無にしてはならない』ということだけは今なお胸に臨床現場に立ち続けています。いずれ後輩や同僚からそろそろ潮時だね…と肩を叩かれる時が来るでしょう。その時まで、いや理学療法士であり続けている間は、患者さんやご家族に学ばせて頂いたことを無にせず、『理学療法士としてお役に立てることは何か』…を求め続けていきたいと思います。

さて、今山梨は第四十六回全国学術研修大会(十月六・七日)成功に向けて士会員一丸となって取り組んでいます。その要である準備委員長を二十期卒業生(磯野賢)が、補佐を二十九期卒業生(大西正紀)が務めております。くじら会の面々も当然のことながら奮闘しておりますが、母校をはじめ全国各地の卒業生より高所対処からのアドバイスあるいは資料の提供、そして激励等々多くのご支援を頂いております。本当にありがたい事です。養成校の統廃合あるいは廃校が年々増加する中、脈々と受け継がれている「絆」・「伝統」、そして母校の歴史の重みと存在の大きさをひしひしと感じております。絶対成功させて支援して頂いている方々の期待に報いたいと思います。

一九八三年三月、四年間の想い出を胸に小雨の中「原チャリ」で一路山梨へ…、あれから早二十八年が経ちました。体力・気力・認知が確かなうちに、私の原点である高知に帰りたいと思います。その時もまた、「原チャリ」で…。

平成23年度前期行事予定表

- 4月2日 入学式
- 4月4・5日 オリエンテーション
健康診断
- 4月6日 前期授業開始
- 4月26日 レクリエーション
- 7月27日 前期定期試験
～8月4日
- 8月6日 夏季休業
～9月30日
- 8月10・11日 よさこい祭参加
- 8月20日 土佐市大綱まつり



就学奨励費について

平成22年10月1日より土佐市内又は土佐市内の賃貸宿舎に居住している学生に対して上半期、下半期それぞれ30,000円の就学奨励費を交付することになり、平成22年度下半期は141名の学生に交付されました。

通学バス運行について

平成22年4月より伊野駅 ⇄ 学院間に通学バスを運行開始し、利用希望者が多く平成23年度はバス2台で運行することになりました。